

令和5年度

長岡京市立中学校米国短期交換留学事業

米国マサチューセッツ州
アーリントン訪問報告書

長岡京市立中学校米国短期交換留学協議会

はじめに

Our world has changed. This is a simple idea that has come with very difficult challenges for people everywhere. Even usual and common things like speaking face-to-face, using gestures, and even smiling have been dramatically interrupted by the worldwide pandemic. For our students who fully prepared to go to Arlington and make lifelong friendships and connections back in 2020, this pandemic was especially cruel. Their chances for this wonderful opportunity were cut and their hard work went unrewarded. Many people on both sides of the Nagaokakyo-Arlington sister city bond eagerly awaited a time when the world would be healed and we could reconnect our beautiful exchange.

This brings us to our current year. We made it! Our students took to the opportunity of our homestay program wonderfully. Some changes were made, some adjustments were necessary, but the students maintained their spirits and met every challenge with their heads held high. I could not be more proud. In a time where social distance has been expected and using a mask has become a norm, and rightly so to protect public health, there is also a tremendous amount of bravery in quite literally facing the world.

And face the world they did. We witnessed a great Red Sox victory (although we really hoped for a Yoshida home run, too), we walked the historic streets of Boston (often in the rain), and we visited many schools, museums, and famous shops (students will absolutely argue we could have seen more of these) that make Boston, and the U.S., so different and interesting. Most importantly, the students formed bonds with the people of Arlington and showed that our future is bright and filled with beautiful potential. Our world is healing and our wonderful, ambitious, and bold students are leading the way. We only need to follow them.

Captain Conor Boyle

はじめに

私たちの生活が一変しました。これは、世界中の人々にとって非常に困難な状況となりました。これまで、当たり前のように対面で話をし、ジェスチャーを使い、みんなで笑い合うことが出来ていたにも関わらず、世界規模で広がった新型コロナウイルス感染症により、その当たり前の日常が壊されてしまいました。特に2020年にアーリントンへ渡航予定だった団員達は、アーリントンの人々との友好関係を築くことに胸を膨らませ懸命に準備をしていましたが、パンデミックによりその機会が奪われ、彼らの努力は報われませんでした。姉妹都市である長岡京市とアーリントン市の双方の人々が、世界がまた普通の生活に戻り、人々の素晴らしい交流が再開されることを待ち望んでいました。

その思いが繋がり、今年、アーリントンへの渡航を再開することができました！団員達はアーリントンでのホームステイを経験する素晴らしい機会を手に入れたのです。例年のプログラム内容から少し変更点があったり、調整等が必要となったこともありましたが、団員達は気力を失わずどんな困難にも前向きに立ち向かいました。私は、その様な状況にも臨機応変に対応した団員達を非常に誇りに思います。公衆衛生を守るために、ソーシャルディスタンスを保つことやマスクを着用することが当たり前となった今、新しい世界に直面することはかなりの勇気が必要だったはずですが、その様な不安を抱えながらも団員達は勇気を振り絞り、アーリントンという新しい土地で様々な経験をすることができました。

団員達はレッドソックスの大勝利を目の当たりにし（吉田選手のホームランを期待しながら観戦していました）、ボストンの歴史的な通りを歩き（しばしば雨の中でした）、ボストン、アメリカらしさを感じる事が出来る現地の学校訪問や博物館、有名なお店を訪れたりしました。（団員たちはもっと見て回りたいたと言っていました）そして何より、団員達はこれらの経験を通してアーリントンの人々と強い絆を結び、両市の未来は明るく、美しい可能性に満ちていることを示してくれました。長いパンデミックで暗かった私たちの世界は、団員達の素晴らしい勇敢さにより、明るい未来へと切り開かれたのです。そして、私たちは、彼らの切り開いた道にこれからも続いていきたいと思えます。

団長 コナー・ボイル

目 次

はじめに

I 訪問の部

- 1 訪問団員名簿 1
- 2 訪問日程 2
- 3 生徒感想文 3
- 4 アーリントンだより 14

※令和 5 年度は米国アーリントンから長岡京市への訪問は中止

I 訪問の部

1. 訪問団員名簿

訪問団一覧

番号	学校名	学年	名前	Name
1	長岡第二中学校	2	花田 太智	Taichi Hanada
2	長岡第三中学校	2	中西 健心	Kenshin Nakanishi
3	長岡第三中学校	2	吉田 芽以	Mei Yoshida
4	長岡中学校	3	平岡 里穂	Riho Hiraoka
5	長岡中学校	3	栗林 柚里菜	Yurina Kuribayashi
6	長岡中学校	3	藤 有彩	Arisa Fuji
7	長岡中学校	3	森 来伝	Raiden Mori
8	長岡第二中学校	3	小野 奏	Kanade Ono
9	長岡第二中学校	3	国本 結愛	Yuna Kunimoto
10	長岡第二中学校	3	清水 彩絵	Sae Shimizu
11	長岡第三中学校	3	中尾 綾那	Ayana Nakao
12	長岡第三中学校	3	中山 真緒	Mao Nakayama
13	長岡第四中学校	3	近藤 龍之介	Ryunosuke Kondo
14	長岡第四中学校	3	飯尾 梨乃	Rino Iio
15	長岡第四中学校	3	岡田 唯愛	Yume Okada
16	長岡第四中学校	3	牧村 咲優	Saya Makimura
17	英語指導助手	団長	ボイル・コナー	Conor Boyle
18	国際理解教育交流指導員	引率	藤原 麻紀子	Makiko Fujiwara
19	長岡京市教育委員会 指導主事	引率	西原 寛貴	Hiroataka Nishihara

2. 訪問日程

日次	都市	時間	行程
4月25日 (火)	長岡京市 ボストン・アーリントン	10:40 12:20 14:35 18:25	長岡京市発 伊丹空港着 伊丹空港-成田空港(16:00着) 成田空港-ボストン空港(同日18:15着) 到着後、ホストファミリーとホスト宅へ
4月26日 (水)	アーリントン		ウィルソンファーム フェンウェイパーク ボストン市街地散策①
4月27日 (木)	アーリントン		ダーリン小学校訪問 イザベラ スチュアート ガードナー博物館 ボストン市街地散策② フリーダムトレイル
4月28日 (金)	アーリントン		アーリントン高校訪問 ハーバード大学見学
4月29日 (土)	アーリントン		ホストファミリーデー ボストン レッドソックス戦観戦
4月30日 (日)	アーリントン		ホストファミリーデー
5月1日 (月)	アーリントン		オトソン中学校訪問 アーリントンコミュニティメディア (ACMI ローカルテレビ局) イーグルス・デリ タウンミーティング (議会) 見学
5月2日 (火)	アーリントン		ミニットマン専門学校 (職業技術学校) キンボールファーム
5月3日 (水)	アーリントン		ロックポート散策 クインシーマーケット フェアウェルパーティー
5月4日 (木)	ボストン・アーリントン	13:30	ボストン-成田
5月5日 (金)	長岡京市	16:15 18:25 21:30	ボストン空港-成田空港 (16:15着) 成田空港-伊丹空港 (19:55着) 長岡京市着 解散

3. 生徒感想文

長岡第二中学校 2年 花田 太智

私がアーリントンを訪ねて、一番印象に残ったのはアメリカの人はとても握手を大事にしているところです。ホストファミリーや友達のホストファミリーは、私にいろいろな握手の仕方を教えてくれました。日本の握手は一般的に種類しかありません。しかし、アメリカでは私が教わっただけでも三つありました。日本で握手は日常的にはあまり使いませんが、アメリカでは握手は日本でいう「礼」や「挨拶」なのです。握手はその家庭や地域、年代によっても違うのではないかと思います。私は初めてアメリカで握手をしたとき歓迎されていると感じ、とてもうれしく思いました。逆に海外の人は僕たちに礼をされたら歓迎されていると思うのではないかと思います。これからは海外の人たちと交流する機会があったら礼をしたり握手をしたりしたいと思いました。

日本とアメリカの文化の違いは皆で行った大リーグのレッドソックスの試合の応援でも感じました。その試合は8対7でレッドソックスが勝利を収めました。私は日本でもよくプロ野球を見に行きます。日本では好きな球団があり、その球団のいいプレーにしか拍手を送りません。ですが、アメリカでは相手チームのいいプレーにはみんなで拍手を送り、相手がミスをして喜ぶことはありませんでした。アメリカでは勝ち負けに一喜一憂するのではなく選手のプレー一つ一つを見に来ていると感じました。

私は今回の滞在を通して日本とアメリカの文化の違いを学びました。でも、どちらの文化も相手を尊重するというところの根本は一緒だということがわかりました。ホストファミリーのサイモンや、サイモンの父とバスケットボールをして心が通じ合ったと思えたこともとても嬉しかったです。もっと世界中の文化や人に触れてみたいと思いました。

長岡第三中学校 2年 中西 健心

僕はアーリントンへの訪問で、様々な経験から多くのことを感じ、とても成長できたと感じました。例えば、ホストファミリーとの会話でも、はじめは上手く話せない、上手く伝えられないと緊張し、積極的になれない時があったのですが、ホストファミリーが一生懸命理解しようとしてくれて、自分ももっと頑張ろうと思い、自分から積極的に会話をしてスポーツなどの共通の話題を見つけ、そこから仲良くなり、積極的に会話をすることができました。これは自分にとってはとても大きな成長で、一生懸命自分の英語を聞き取ろうと頑張ってくれたホストファミリーにはとても感謝しています。

特に印象に残ったのはタウンミーティングです。日本との違いにとっても驚きました。アーリントンでは直接民主制という日本ではとても珍しい方法で議論をしていて、これはアメリカの日系の積極性から成り立っているのだなと感じ、自分もこの積極性を見習いたいと

思いました。議会を見学している時にホストファミリーのお父さんが前に立ち、長岡京市の訪問団を紹介してくれました。更に自分の名前も上げてくれました。とても嬉しかったし、そんな人の家庭に受け入れてもらえてとても幸せだなと感じました。そのことをお父さんに伝えるととても喜んでもらえて自分も嬉しくなりました。

このタウンミーティングに限らず、いろいろな経験でとても多くの気付きがあり、改めてアーリントンに行けて良かったなと思いました。だけど、今回の経験の中でまだまだ成長できる場所はあるなと気づかされた部分もあり、頑張ろうと思いました。このアーリントンの訪問で本当にいろいろ学べてとても良い経験ができて良かったです。こんなにいい経験ができるこの訪問団をもっと色々な人に伝えていきたいと思いました。

長岡第三中学校 2年 吉田 芽以

五月三日のフェアウェルパーティーはとても楽しかったです。

自分が浴衣を着終わって下の階に降りた時ホストが可愛いわって褒めてくれました。日本らしいものを見せられて文化の交流ができたかなと感じられました。

会場に着いた時みんなの浴衣姿もものすごくきれいで食べ物も全部美味しそうでした。私のお家は初日に出してくれた思い出のホットドッグを持って行きました。ホストと一緒にご飯を食べた時、他のホストファミリーに自分のことを自慢の娘と褒めてくれて恥ずかしかったけど嬉しかったです。

その後、団員みんなでホストファミリーに感謝の気持ちを伝えました。言いたいことを全ては伝えきれなかったけど、気持ちは伝えられたと思います。自分は感極まって泣いてしまいました。

その後他の子達のホストとかと写真を撮ったりしていたら、ホストファミリーがサプライズでケーキを持ってきてくれました。私はあっちに着いた時初めて自分の誕生日のことを伝えたのでこの短期間で用意してくれたんだと思うととても嬉しかったし驚きました。

またケーキを渡してくれた後に「今までの誕生日で忘れられない一日になったね」と言ってくれました。アーリントンに行けただけで貴重な体験をさせてもらっていたけど、このことでより忘れられない訪問になりました。

帰る前に残っていたみんなでカントリーダンスを教えてもらい音に合わせて踊りました。音楽が意外に長くてハードだったけど、とっても楽しかったです。

最後のパーティーは名残惜しかったけど、とても楽しくもありました。この様々な経験を無駄にせず自分の自信や興味に繋げてまた次の人へとバトンパスできるように精進したいです。

長岡中学校 3年 平岡 里穂

アーリントン訪問は、私にとって待ち望んだ海外渡航で、新しい刺激をたくさん受けました。またアメリカ文化を様々な角度から肌で感じられるように考えられたプログラムはどれも心に残るものばかりでした。私はその中でも、古い歴史を誇る街ボストンならではの「フリーダムトレイル」をたどることによって、学校ではあまり触れることのないアメリカの建国の歴史や独立戦争に関して学べたことは非常に勉強になったと思います。ボストンコモンを起点に最初に訪れた場所は「マサチューセッツ州議事堂」で、金色のドームが特徴的な建物です。ただドームの色は、第二次世界大戦中は爆弾を避ける為灰色に塗られるなど時代を表し変化をしています。私は建築に興味があるので、チャールズ・ブルフィンチが設計した名建築は、本当に堂々としたたたくまいで感動しました。その後「旧州議事堂」にも行きました。そこではアメリカ独立宣言が読み上げられました。ボストン最古の公共建築物だけあって、その当時の人々の自由を求める気持ちを想像しました。

訪問中は、ホストファミリーに大変お世話になりました。出会うまでは英語でうまくコミュニケーションが取れるかなじめるか心配でしたが、出迎えのホストマザーの笑顔を見た時一瞬で安心することができました。滞在中は、私が好きなことを積極的に考えてくれました。例えば、ホストファミリーデーには一緒に映画を見たり、ドライブではいろいろな国の音楽を聴かせてくれたり、いい思い出です。マザーは建築士で、私の夢の職業と同じなので、パソコンで彼女が描いた設計図や関わった建物の写真を見せてくれました。お好み焼きを共に作った時は自分なりに英語で説明することにトライし、お互いの文化を伝えあうことが出来た気がして、仲が一層深まったように思います。ホストファミリーと連絡を取り続け、将来またアーリントンを訪問したいです。

長岡中学校 3年 栗林 柚里菜

アーリントンにいた十日間、本当に楽しかった思い出で沢山です。最初はコミュニケーションがとれるのか不安でしたが、現地の方々はとてもやさしく迎え入れてくれ、関わってくれた方全員が本当の家族のように温かく接してくれ、いつの間にか抱えていた不安や緊張はなくなっていきました。本当の家族のように接してくれたことがとてもうれしかったです。

私たちはアーリントン二日目、ドキドキしながらバスに乗りこみ、行った場所はウィルソンファームでした。一番最初の見学先。ドキドキしていた気持ちはどこかに消え、楽しみでいっぱいになっていました。入って一番最初にあったのは、売り物の野菜や花でした。色んな場所から輸入され並んでいることを知り、初めて見るような野菜に私たちは興奮していました。値段も値札に書かれている文字も日本とはまったく違う。やっと私たちはアメリカに来ているんだという実感がわきました。その後、お客さんは入れないような中の方に案内していただきました。色んな大きい機械や、巨大な洗濯機が置いてあったりと、

初めて見るものにとっても興奮しました。花は花でも綿のようにやわらかいつぼみが付いた花があったり、お花を育てているところでは場所によって温度を変える工夫をしていたり、おどろかされることばかりでした。外に出てみると一見雑草のように見える草が一面にはえていました。みんなでなんだろうと話していたら、これは雑草ではなくチッ素を含んだものであると言っていました。土が乾燥しないための工夫と聞き、とてもおどろかされました。とにかくウィルソンファームには沢山おどろかされたし、働いていらっしゃる方もやさしくて見学が本当に楽しかったです。

この訪問で数えきれないほど沢山のことを学びました。先生方、お世話になった皆さん本当にありがとうございました。いつかまた必ずアーリントンに行きたいです。

長岡中学校 3年 藤 有彩

アーリントンで過ごしたこの十日間は、私にとって一生の宝物になりました。

ボストン行きの飛行機の中、緊張で不安になってしまうかなと思っていたけれど、実際はそれよりも早くアーリントンに着きたい！ホストファミリーに会いたい！！というワクワクした思いでいっぱいでした。

ジョアンさんの家に着き、ホストファミリーに会えた時はうれしさと安心した気持ちで心がホッとになりました。家に帰るとホストマザーが夕食に私の大好きなマカロニ&チーズを作ってくれていました。私はホストマザーのおもてなしに感動し、頑張って英語で感謝の気持ちを伝えました。すると、

「喜んでくれて良かったわ。」

と笑顔で言い、私にハグをしてくれました。私はこの時、心のつながりを感じる事ができて、とても嬉しかったです。

これから、ボストンで訪れた場所の中から二か所、私の感じたことや思い出について、書きたいと思います。一つ目の場所はイザベラ・ガードナー美術館（イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館）です。各部屋ごとに絵画や調度品が展示されていました。私は、一番イザベラ美術館の庭園に心を動かされました。太陽の光が差し込んだ庭園の景色はすばらしかったです。置いてある植物も考えられて配置されていることを知り、より深く学ぶことができました。

二つ目の場所はニューベリー通りです。通りにはレンガ造りの建物が立ち並んでいて、歴史を感じることができ、魅力的でした。

私は今回の訪問を通して、自分の気持ちを伝えようと努力することの大切さを学びました。最終日の別れの時、私の家族は「いつでも帰ってきてね。待ってるよ。」と言い、お土産にマカロニ&チーズをくれました。私は嬉しさと寂しさで涙があふれました。私は将来CAになって、英語でいろんな国の人と会話したり仕事ができるようになりたいです。そしていつか、私の家族の元へ帰りたいです。

長岡中学校 3年 森 来伝

僕が今回の訪問で特に良い経験になったと感じたのは、ホストファミリーとのホームステイです。

初めのうちは、正しい英語を話そうと間違いを恐れていましたが、会話を続けていくうちに、英会話で本当に大切なことは、正確な文法で英語を話すことではなく、わからない表現があっても身振り手振りなどで相手に伝えようとする意思なのだ気付きました。そうすることで、今まで英語で話せなかったことも言えるようになり、楽しく過ごすことができました。いつもお世話になったホストファミリーには感謝の言葉ありません。自分を日本人のいない環境に置けたことは今までで最も良い体験になったと思います。

また、フェンウェイパークという野球場でのツアーも印象に残りました。僕は野球の観戦に行ったことがなく、初めて来た球場の雰囲気圧倒されました。そこは、メジャーの専用球場では最も古い歴史を誇っている球場で、これまでにハリケーンや火災といった様々な困難があったそうですが、それらを乗り越えながらも今まで愛され続けているのは凄いなと思いました。

アメリカではいろんな人が暮らしているからこそ、いろいろな国の料理を体験したり、生活や文化、歴史について知ること、それらを尊重することの大切さを学ぶことができました。日本で必死に覚えた楽しい英会話なども含め、アメリカで学んだことを今後の生活で必ず役立てていきたいです。

長岡第二中学校 3年 小野 奏

私がアメリカに行って感じたことはコミュニケーションを積極的に取ることの大切さです。学校見学などで手を振ってくれたり、挨拶をしてくれる人が多く、知らない人でも親近感がわいて見学はさらに楽しくなりました。ホストファミリーもたくさん話をして、特にお互いの国の文化（日本の「いただきます」についてやアメリカの学校の様子）を話すとき、とても興味を持ってたくさん質問もしてくれました。英語ですべて説明は難しいですが、自分の知るワードを使ってとにかく「伝える」ことを意識すると理解してもらえて、一緒に笑ったり、盛り上がってとても楽しかったです。

ホストファミリーと学校についても話しましたが、実際にダーリン小学校を訪問したとき一番感じたのは、カラフルだということでした。教室も机が日本みたいにきっちり並んでいないし、小学生もキャップをかぶったりピアスをつけたりしていて、教室の色も華やかだけど一人一人の個性がはっきり見えるようでした。けん玉体験の時は技についてなど気になったことはどんどん質問していて積極的な子が多かったです。中には少し内気な子もいましたが、玉をのせることに成功し、満面の笑みで周りに報告している楽しそうな姿が見れて嬉しかったです。小学生たちは私たちからすると少し早いぐらいのスピードで話していて、学校案内をしてもらった際にみんなついてくのがやっとなのが印象的でした。

た。自分では勉強してきたつもりでも、実際に話したり聞いたりするのにまだまだレベルが足りないなど感じる事が多く、もっと勉強してもっとたくさんのお話を話せるようになりたいです。この経験は私にとってとても大切なもので、「楽しかった」で終わらずに自分が今後どうしたいかのスタートラインにいる気持ちで頑張っていこうと思います。支えてくれた方々、先生や仲間たちへ、「本当にありがとうございました。」

長岡第二中学校 3年 国本 結愛

私たちはアーリントンで ACMI に行きました。ACMI とは、簡単にいうとアーリントンのケーブルテレビ局のことです。そこでは、実際に撮影で使われているセットやカメラ、たくさんのお機器の使い方を教えていただき、体験をしました。日本でも滅多にできないことをアメリカでさせていただき、とても貴重な経験となりました。ACMI の皆さん、本当にありがとうございました。

私は、今回のプログラムを通して、人と人の「つながり」を知ることができました。ホストファミリーとの会話の中で、何を言っているのか聞きとれなかったり、言葉が浮かんでこなくて、会話が詰まってしまうことがありました。そんなとき、ホストファミリーは、分かりやすいように話してくれたり、私の言いたいことを理解しようとしてくれました。だから、私もジェスチャーを使ったり、知っている単語で表したりして、少しでも伝わるように努力することができました。

また、アーリントン高校に行ったときには、同じ机で授業を受けていた人が覚えていてくれて、カフェテリアで手を振ってくれるということもありました。

私は、たくさんのお違いがあっても「つながり合える」ということに気づきました。メンバーのみんな、ホストファミリー、先生方、他にも、このプログラムで出会えた多くの人々との「つながり」を大切にしていきたいです。また、私をいつも助けてくれた家族、先生方、本当にありがとうございました。アーリントンでの生活は私にとって一生の宝物です。そして、このプログラムがこの先もずっと続いていくことを願っています。

長岡第二中学校 3年 清水 彩絵

四月二十八日、長岡京市からの訪問団は、アーリントン高校を訪れました。外見を見ただけでまず、その綺麗さとスケールの大きさにびっくり！そして、カフェテリアで朝食も昼食も食べられることにびっくり！日本とは違う国にいるのだということを実感し、驚きの連続でした。

まず始めにしたことは校内見学です。ホストファミリーの高校生が中心に教室や校庭などを興味深い解説付きで案内してくれました。その後実際にクラスにグループごとに分かれ

て参加することになりました。私たちは英語の授業を受けることになり、それぞれ自由に席に着きました。教室には、先生チョイスのCDが流れ、ジュースを片手に座っている生徒もいて自由な雰囲気だという印象でした。始まりの合図は先生の鳴らす本物のチャイムです。最初に文法を勉強したあと、パソコンで問題演習、そして読書をしました。本当に字が細かく、ついていくのがやっとでした。その後は意見交流をしたり作業などの時間がありました。

もちろん教室の外でもOKで思いおもいの場所で勉強に取り組んでいました。

そんな様子を見ていて思ったのは、本当に自分のために勉強をしているということです。誰かの決めた時間割でもなく、強制されている訳でもない。一見自由な様に見えるけれど、一人一人がしっかり自分の意志を持って、自分で決めたことだからこそ学びに向き合っている。そんな雰囲気がそこにはありました。よくアメリカ人ははっきり意見を言うといわれていますが『アメリカ人』だからではなく、社会の基礎となる学校や仕組みにその根本的な理由があるのではと感じました。

私はアメリカという国でそこに行くことでしか気づけなかったたくさんの物の見方に出会うことができました。ホストファミリーの優しさも忘れません。

We love Arlington!

長岡第三中学校 3年 中尾 綾那

私たちアーリントン短期交換留学団は、訪問七日目、ホストン市内にある「イーグルスデリーハンバーガー」というお店に行きました。ここは、私が今回の訪問で一番楽しみにしていた場所で、その理由は二つあります。

一つ目は、ただ単純にハンバーガーが好きだから。訪問前にコナー団長からこのハンバーガーは世界一美味しいと聞いたこともあって、期待を膨らませていました。

二つ目は、アメリカのビッグサイズがどのようなものか見てみたかったから。私は、訪問が決まるずっと前からアメリカに行きたくて、どうやったら行けるか、行ったら何ができるのか、というのを考えていました。そのときに、アメリカのものはほぼ全てビッグサイズで、ハンバーガーなんかも日本よりずっと大きいという話でした。勿論これは噂なので、本当かどうかわかりません。だから、それを調べたくて行ってみたかったというのもあります。

そんないろんな思いを胸にしながら店内に入って待っていると、十段ほどのとても大きなハンバーガーとバスケットいっぱいに入ったフライドポテトがやってきました。十六人と先生方と分けるのです。結局、自分の元にやってきたハンバーガーは日本と同じ大きさでした。けれども、コナー先生の言っていた通り、それはそれは物凄く美味しいハンバーガーでした。

私が今回のアーリントン短期交換留学で得たものは、言葉では表現し難いほど大きく、そして大切なものでした。これからもずっとこのような活動が続いて行って、私と同じよう

に沢山のことを学んで日本に帰ってくる生徒たちが、それをこれからの人生に生かしていけたらいいなと思いました。

長岡第三中学校 3年 中山 真緒

私たちは、アメリカで遊園地に行きました。その日はあいにくの雨だったので、屋外のアクティビティはびしょぬれになりながら行いました。園内のアイスクリーム屋さんがあり、個々で好きなフレーバーを選びました。アメリカンサイズのアイスクリームは食べるのも一苦勞しました。私はクレーンゲームでぬいぐるみをとった後、友達とマリオカートをしました。日本のゲームをアメリカでするのは新鮮で楽しかったです。

私は今回生まれて初めて国外へ出ました。出発前は親もいないし知らない土地でやっていけるのかという不安でいっぱいでしたが、ホストファミリーが温かく迎えてくださったときには、純粹にこの機会を楽しもうと思えていました。私のホストファミリーはホスト経験があり、何一つ不自由ない生活をさせていただきました。

私がこのホームステイで学んだことは、相手を受け入れる気持ちがあればどんな人とも分かり合えるということです。どれだけ文法がぐちゃぐちゃでうまく話せていなくても、私のホストファミリーたちは必死に私の思いを汲み取ろうとしてくれました。私にはそれが本当にうれしかったし、心強かったです。この先、私がこの経験を忘れることはないでしょう。そして、いつか海外へ行くことがあれば、またこの町に帰ってきます。

今回私が無事に渡航できたのは、たくさんの支えがあったからこそだと思っています。私をホストしてくれたウィリアム、ケリー、エミリー、チャオ、ローラとはかけがえのない思い出を作ることができました。滅多に経験することのできない貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。この機会を自分自身の将来に生かします。

長岡第四中学校 3年 近藤 龍之介

僕たちはオトソンミドルスクールに行きました。オトソンミドルスクールでは授業体験やカフェテリアで朝食、昼食を食べたりしました。

ミドルスクールは日本の中学校と違い日本の小学五年生から中学三年生までの学生が在籍しています。また、日本の中学校と違い授業が選択制になっていました。それぞれの生徒がそれぞれの時間割を持っていて、自分の足で次の授業があるクラスまで移動します。国語や数学など日本と同じ教科やフランス語などの日本にはない教科もありました。僕は国語、数学、フランス語の授業を受けたのですが、オトソンミドルスクールの生徒たちは日本での iPad のように一人一人にパソコンがありました。僕が受けた授業の限りではノートを使っている人は一人もいませんでした。僕はこのことに一番驚きました。オトソンミド

ルスクールに行く前から思っていたのですが、アメリカには全くシャーペンが売っていません。オトソンミドルスクールの生徒たちもシャーペンではなく、鉛筆を使っていました。僕は僕のペアだったハンナと共に行動していたのですが彼女も筆箱は持っていても使ってはいませんでした。また、彼女は白杖を使って普段生活しているらしいのですが、複雑で迷路みたいな学校を普通に行き来していて周りの生徒たちも普通に彼女と話したり遊んだりしていて日本と違うなと思いました。日本が世界から遅れているといわれるのもアメリカなどと違って保守的だからだろうなと思いました。

日本とアメリカでは違うところがたくさんありました。でもみんなが楽しそうに生活しているのは日本と変わりませんでした。僕はオトソンミドルスクールで日本とアメリカの共通点や相違点を知ることができてよかったし、とてもいい経験になったと思います。

長岡第四中学校 3年 飯尾 梨乃

まず私は、アーリントンから日本へ帰ってきたとき、とても夢のように楽しかった十一日間だったなと思いました。出発する前は、ホストファミリーとちゃんとコミュニケーションをとれるか少し不安だったので、こんな風に思えるなんて想像もつきませんでした。

しかしそれは、ホストファミリーがいてくれたからこそ、味わえたのだろうなと思いました。初めてホストファミリーに会ったときの、今日から家族の一員だよという言葉に、私はすごく救われました。本当の家族として出迎えてくれてとてもうれしかったです。私のつたない英語を理解しようとしてくれたり、私のために、ゆっくり簡単な言葉で話してくれたり、美味しいご飯やお弁当を作ってくれたり、いろんな場所へ連れて行ってくれたり、感謝でいっぱいです。ホストファミリーとの思い出の中でも、小学六年生の妹の Uma ちゃんと、地下室で一緒にイカゲームを見たのが一番の思い出です。アメリカでは、イカゲームに日本語字幕がなく、英語字幕を見たのですが、日本語の得意な Uma ちゃんに翻訳してもらったり、韓国語をがんばって二人で理解したりして、日本語字幕がなかったおかげで仲良くなれてうれしかったです。ホストファミリーとの別れは悲しかったけど、今年日本へ来てくれるそうなのでハッピーです。

ホストファミリー以外の思い出も、ロックポートやクインシーマーケットなど、いっぱいつまっています。ロックポートでは、海水に触れたり、おもしろい鳥を見て笑ったり、たくさん写真を撮ったり、楽しみました。ホストファミリーへの感謝のお土産もそこで買いました。喜んでもらえてうれしかったです。

クインシーマーケットでは膨大な量のお土産物屋さんがあるので、何を買うかとても迷いましたが、いい物を見つけられてよかったです。

この十一日間は私の一生の宝物です。

私は今回初めてアメリカを訪問しました。その中で驚いたこと、楽しかったこと、感激したことがたくさんあります。けれどその中で私が一番驚いたことは向こうの方たちは私が思っていた以上に私たちを歓迎してくれたことです。ホストファミリーを始めコーディネーターの方、アーリントンの学校の先生方や生徒、本当にたくさんの人たちが私たちを向かい入れてくださいました。その中でもホストファミリーは私を家族として迎え入れてくれました。英語がうまく伝わらない時は伝わるまで聞いてくれたり私の声の調子が悪かったときは心配してくれてたくさんのご飯をくれたりしました。そんな風にやさしくしてくれたホストファミリーに私は本当に感謝しています。ホストファミリーとのお別れのとき「またアーリントンに来るね」と言って感謝の言葉を伝えました。そして日本に来る時は私の家に来てほしいということも伝えることができました。

アーリントン訪問八日目、私たちはミニットマン専門学校を訪問しました。そこで私が一番驚いたのは調理や美容、工業など本当にいろいろな学科が一つの学校に集まっていたということです。学ぶことは全く違うのに同じ場所というのがとても面白くて興味深いなど感じました。専門学校では初めて見るものがたくさんあって訪問した中学校や高校とはまた雰囲気が違う所でもっとこの学校のことを知りたいと感じさせられるような場所だったなと思います。

アーリントンを訪問したのはたった十日間だったけど、私にとってこの経験はとても貴重な時間でした。もちろん「もっとああしておけば…」と後悔していることもあります。だけどそれ以上に得られたことがありました。このプログラムに関わってくださった全ての方に感謝しています。

「ありがとう」これは私が今回のアーリントン訪問で一番使った言葉です。ありきたりと思うかもしれませんが、アーリントンに行ってこの言葉の大切さを改めて知ることができました。団員皆でハーバード大学を訪れた時、近くでバーベキューをしていたり、スポーツをしていたりとても楽しそうでした。私たちが歩いていると、楽しそうな声と共に「ありがとう」と英語で聞こえ、心が温まりました。その後私たちは、ハーバードスクエアに行きました。そこでは皆、家族や友達にお土産を買ったり、自分用に服を買ってる人もいました。そこで私もロブスターのキーホルダーやボールペンを買おうと思い、レジへ行きました。しかしアメリカでの買い物が難しく私はとまどってしまいました。ドルの計算が難しく、特に小銭の種類が多すぎてレジであたふたしていたら、店員さんが優しく丁寧に「これとこれだよ。」と教えてくれ、無事買うことができました。その時私は何度も「ありがとう」とお礼を言いました。その日はずっと気分がよかったです。

最初はアメリカの方々にはサバサバしていて少し怖い印象があったけれど、実際に行ってみ

ると、皆優しく英語へタクソの私とも沢山話してくれて「もっとアーリントンに居たい」と何度も思いました。そして、今回の訪問で沢山の経験ができたのは家族や周りの友達、ホストファミリーそして現地の人々のサポートがあったからです。普通の旅行では経験できないことを経験できてとても幸せ者だと思います。現地で不安なこともあったけど、ホストファミリーが優しくうれしかったです。今回の体験を生かして、これからの自分の成長にもつなげていきたいです。このプログラムにたずさわってくださった全ての人に「ありがとう。」

4 アーリントンだより

From Arlington 2023 4月25日 ①



いよいよこの日がやってきました。まず出発式を行いました。出発式では、松本副市長や西村教育長から今回の訪問を機会に、たくさんの経験をしてきてほしいことや元気に無事に帰ってきてほしいこと、多くの人の支えがあって今回の訪問が実現していることを話され、皆引き締まった表情で聞いていました。松本副市長をはじめ、保護者の方や関係するたくさんの人に見送られながら、長岡京市を出発しました。

伊丹空港へのバスの中で

伊丹空港までのバスの中では、遠山先生からこれまでのアーリントンプログラムの歴史について話をしてもらいました。20年という長い歴史があることや、今回の訪問がこれからのプログラムに繋がることを知り、一人ひとりが積極的に関わることが大切であることを聞きました。その後全員で「Sweet Caroline」「ふるさと」「上を向いて歩こう」などをみんなで合唱しました。

伊丹空港から成田空港へ

伊丹空港ではグループになりチェックインを済ませ、その後デッキで昼食を食べました。

出発の記念撮影をし、ここで遠山先生、山崎さん、米津さんとお別れをしました。

JAL3006 便で 14:35 に成田空港へ出発。

成田空港からボストンローガン空港へ

約 1 時間程で成田空港着。JAL008 便で 18:05 に成田空港からボストンへ出発しました。

伊丹空港でも成田空港でも手荷物検査やセキュリティーチェックがあり、緊張することもあったと思いますが、無事全員がクリアし、日本を立ちました。

広い広い太平洋を越え、約 12 時間のフライトです。機内では音楽を聞いたり、映画を見たり、これからは向けて英語の勉強をしたり、ゲームをしたり、と思いつきの時間を過ごしていました。

着陸する前には、ボストンのビル群が見え、「アメリカや！」と声が上がっていました！

ボストンローガン空港に着くと、見るもの聞くことが初めてのことばかりで、全員にアメリカへ来たという実感があつたのではないのでしょうか。

そして、入国審査。入国審査は長蛇の列。

約 30 から 40 分待った後、一人ひとり審査官と対面。もちろん全て英語での受け答えです。緊張や不安があつたと思いますが、ここでも大きな問題なく全員がクリアできました。

ボストン空港からアーリントンへ

ボストン空港で記念撮影をした後、バスでアーリントンへ。

バスの中では、コーディネーターのジョアンさんからチョコブラウニーをいただきました。初めて口にするアメリカの味に、歓声が上がっていました。また、外は暗かったですが、アメリカの街並みに「おー！」とまた歓声！最後に、アーリントンへ入った時にも「おー！」と歓声上がり、期待とうれしさが溢れ、長旅の疲れを感じさせない様子でした！

ジョアンさんの家でホストファミリーと対面！

どのホストファミリーも温かく出迎えてくださり、笑顔笑顔のひとつときでした。しばらくすると、歓迎の花火が打ち上がり、大歓声！その後、生徒はそれぞれホストファミリーの家に向かいました。

ボストンもアーリントンもあいにくの雨でしたが、明日からが晴れ晴れとなるような、そんな 1 日の終わりとなりました。

From Arlington 2023 4月26日②



ウィルソンファームへ

2日目のスタートは、アーリントンからバスでウィルソンファームへ行きました。バスから降りるやいなや、「広すぎやん！」と農場の広さに声が上がっていました。農場の方に隅々まで説明をしてもらいました。

バックヤードや食品を保管する冷蔵庫、温室、農場の畑まで、どれもスケールが大きいものばかり！フルーツはアメリカや世界の各地から送られてくることが、コンピューターで全て温度管理されていることなど、最新の技術で進められていることに、驚くこともたくさんありました。

途中、サプライズでいただいたアップルドーナツは、おいしさにみんな笑顔でした！

ウィルソンファームを後にして、バーリントンモールでランチとショッピングタイム。

ここでもアメリカのスケールの大きさを目の当たりにしました！

駐車場の広さ、建物の大きさ、お店の多さ、ランチで食べるものもとても量が多く、1人では食べきれないことも。

そんな中、サングラスを買ったり、キャップを買ったり、キャンドルを買ったりと、買い物にランチにみんな楽しんだようです。

フェンウェイパーク

午後からはボストンの中心部へ移動。バスで街の中を走っていると、昨日は暗くて見えづらかった建物やビルが次々と明るみに。「アメリカや！」とか「おー！」という歓声が次々に上がりました。

あわせて、馴染みのあるセブンイレブンやスターバックスも街の中にもあり、「アメリカにもあるんや」と、親近感を感じる一瞬もありました。

いよいよ楽しみにしていたフェンウェイパーク見学！ボストンレッドソックスの本拠地へ。

メジャーリーグの球場を、間近でゆっくりと見ることができました。中でも、レフト後方にあるグリーンモンスターの上の座席に座ると、圧巻の景色！ワールドシリーズになると約30万円を超えるという席もみんなで一列になり、座りました。その他にもプレス席や、ガイドさんから2番目におすすめというレフト後方にも行きました。行く場所ごとに、驚きが止まらない様子でした。

ガイドはもちろん全て英語ですが、その内容を聞いていて、質問している様子も！

最後は全員でフィールドをバックに記念撮影を撮りました。次は、土曜日に再び訪れることを楽しみにして、球場を後にしました。

ボストン市街地散策

フェンウェイパークからボストンの街を歩きました。新しいビルから、古い教会、お店など、ただ歩く

だけでも全てが新鮮で新しい発見の連続です。たくさんの方が行き交うボストンの街を、自分の目で耳で肌で感じました。

コナー先生からは、ボストンマラソンのフィニッシュ地点を教えてくださいました。みんなで一列に並んで記念撮影をしたかったところでしたが、車が多く断念。

そして、ボストンコモン（ボストン公園）へ到着。ここの公園もとても広く、またまたアメリカのスケールを感じました！

ここではスワンボートに乗りました。公園の中に、野鳥もいますが、リスが！

ここの公園では普通の光景です。思っているより少し大きいサイズのリスが、結構たくさんいて、写真を撮る姿が。

スワンボートに乗った後、コナー先生にボストン公園にまつわる絵本の読み聞かせをしてもらいました。題名は「MAKE WAY FOR DUCKLINGS」。ボストン公園にまつわるダックのお話を聞き、その銅像も見に行きました。

きっと心に残ったことでしょう！

アーリントンに戻り、ホストファミリーが今日も温かく迎えに来てくださり、それぞれホストファミリーの家に帰りました。

良い天気にも恵まれ、思い出に残る1日となりました！

明日は、ダーリン小学校を訪問する予定です。

From Arlington 2023 4月27日 ③



ダーリン小学校へ

3日目、朝はアーリントンにあるダーリン小学校を訪問しました。ダーリン小学校では全校集会の最初に、姉妹都市である長岡京市から来た交換留学プログラムのお話をしてもらいました。

今まで練習してきた「ふるさと」「上を向いて歩こう」「This land is your land」「Sweet caroline」の合唱を披露しました。

ダーリン小学校子どもたちからの大きな拍手は、みんなの心に残るものだったに違いありません。最後にもう一度、校長先生がギターを演奏され、「This land is your land」を全校で合唱しました。

その後グループに分かれ、小学校2年生の子ども達へ、折り紙、習字、けん玉を教えてあげました。どのグループも英語で優しく教える姿があり、交流の最後にはお互いに自然と手を振っていました。優しく教える姿はさすが中学生！国は違っても、心が通じ合う、そんなひと時になりました。きっとダーリン小学校の子どもたちも、今日の交流は心に残っているはずですよ。

そして、小学校の代表の子ども達と一緒に集合写真を撮り、5年生がガイドになって校内を案内してくれました。日本の小学校と、施設が異なることや1日の生活が違うことに、耳を傾けていました。

昼食はピザをごちそうになり、素敵なパンケーキをいただいて、ダーリン小学校を後にしました。

イザベラ スチュアート ガードナー博物館

午後はボストン市街地にある、イザベラ スチュアート ガードナー博物館を訪れました。ここは同行してもらった、ローレンさん曰く、なかなか予約を取ることが難しいとのことでした。

美術品のコレクターのイザベラさんは、館内の隅々に、自分が得た世界各国の美術品の数々を収蔵、展示し、今に伝わっています。一つひとつの作品が素晴らしく、みんな写真を撮ったり、調度品をじっくり見たりしていました。

中でも、ステンドグラスはとても美しく、写真を撮っている人が多かったですね。日本と異なる雰囲気的美術館に来られたことが、同行してくれたローレンさんへ、みんな良かったと答えていました。

ボストン市街地散策② フリーダムトレイル

美術館からボストン市街地を抜け、マサチューセッツ州議事堂まで歩きました。ボストンの街はアメリカの中でも大変古い街であり、そのことを知ることができるのが、「フリーダムトレイル」です。

今回は、昨日訪れたボストン公園の横にあるマサチューセッツ州議事堂前で、コナー先生から説明を聞きました。

レンガのラインを辿りながら、旧州議事堂、ボストン虐殺の地を歩きました。

歴史のあるボストンの街を感じることができた瞬間でした。

その後クインシーマーケットで、ショッピングの時間を過ごし、アーリントンへ戻りました。帰りのバスは、いつも元気な生徒たちもさすがに疲れていたようで、寝ている生徒もいました。

明日はアーリントン高校へ訪問です。ホストファミリーの家でゆっくり休んで、明日に備えてほしいです。

From Arlington 2023 4月28日 ④



アーリントン高校へ

朝から、アーリントン高校を訪問しました。アーリントン高校は、規模がとても大きく、日本では大学に近いような雰囲気のある学校です。日本と同じように、8時半から授業が始まります。アーリントン高校では、過去に長岡京市のAETをしていた、ジャスティン先生にいろいろな案内をしてもらいました。

1時間目はパンケーキをいただきました。先に朝ごはんを食べていた人も、さらに食べているところを見ると、さすが中学生！自分の好きなものをトッピング。ジュースとともにそれぞれ完食でした。

その後、校内をホストファミリーの高校生が案内してくれました。

校内の広さはアメリカンスケール！図書館、カフェテリア、音楽室、講堂、体育館、グラウンド、みんな興味津々でした。

3時間目はELA (English Language Arts) 日本の国語にあたる時間を4グループに分かれて参加。全て英語での高校生の授業、難しいことがたくさんあったと思いますが、これも経験！アーリントンの高校生が真剣に学ぶ様子、自分達も学ぶことがたくさんあったのではないのでしょうか。

カフェテリアでランチタイムの後、いよいよ歌の発表！アメリカでは2回目の発表でしたが、立派な講堂と、高校生の前での発表はまた小学校とは違う雰囲気！それでも、さすがは16人。「Sweet Caroline」のあと、奏さん、結愛さんのピアノ伴奏にあわせ、「ふるさと」、「上を向いて歩こう」の合唱を披露しました。彩絵さんのGreetingsも、代表として、素晴らしかったです。発表の後、たくさんの拍手、うれしかったですね！校長先生から、アーリントン高校のグッズをたくさんいただきました。これもまた、うれしかったですね。

全てが終わった後、自然にアーリントンの高校生と輪ができて、みんなで集合写真を撮りました。これこそ国際交流！ここでしかできない経験ができました。

6時間目は体育でピククルボール（卓球をバレーボールのコートでするようなスポーツ）をしました。たくさん体を動かして、思いっきり楽しみました！

高校を後にする時には、いろいろな生徒と話したり、関わったり、たくさんの交流ができた訪問でした。

ハーバード大学見学

バスに乗り、ハーバード大学へ行きました。みんな知っている名門ハーバード大学。門をくぐると、歴史のある建物がたくさん建っており、多くの学生が行き来していました。

コナー先生が今日も丁寧に説明をしてくれ、みんな熱心に聞いていました。創立者ハーバード像の前で集合写真。その後、足を触ると幸運が訪れることからみんな左足をタッチしました。図書館の蔵書冊数はなんと世界最大規模！みんなの中から、何年後かにここへ戻ってくる人が現れるかもしれませんね。

初めて訪れる場所、見て、聞いて、今日もたくさんの発見がある1日でした。

ハーバード大学の近くでショッピングをして、今日は市バスでアーリントンへ帰りました。これもまた1つ、貴重な経験でした。

明日は見学に行ったフェンウェイパークでのメジャーリーグ、レッドソックスの試合の観戦です。良い天気で見られますように！

From Arlington 5月1日㊦



オトソン中学校へ

アーリントンに来て、7日目となりました。

今日は朝からオトソン中学校を訪問しました。オトソン中学校もアーリントン高校と同じく、朝からカフェテリアが開いており、朝ごはんをここで食べることができました。その後2時間目まで、一人ひとりがオトソン中学校の生徒とペアになり、各授業に参加しました。同じ中学生が学習している様々な教科の学習に参加して、高校に引き続き、得るものがたくさんあったことでしょう！

3時間目はカフェテリアに生徒が集まり、アーリントンに来てから3回目の発表、今日もまた、合唱は堂々としたものでした。

今日は龍之介さんが中学生へ向けて、あいさつをしました。ナイス Greetings!中学生からもとても大きな拍手と声が上がっていました。

その後もう1時間、ペアの中学生と学習、昼食はカフェテリアで食べ、オトソン中学校を後にしました。

アーリントンコミュニティメディア（ACMI ローカルテレビ局）へ

午後は ACMI（アーリントンローカルテレビ局）へ行きました。実際に放送を行っているスタジオで、アナウンサーやカメラマン、音響設備など、楽しみながら体験を行いました！「5、4、3、2、1」と、全員で協力して、本番さながらの活動！プロが扱う本格的な機器を使っての全ての体験は、貴重な経験になったことと思います。

ハンバーガーのお店、イーグルス・デリへ

アメリカに来る前から聞いていた、大きなハンバーガーが有名な「イーグルス・デリ」へ！みんなのテンションも最高潮に！

お店の人が持ってきてくれた大きなハンバーガーに釘づけでした。たくさんのハンバーガーのパテが串刺しに！それに山盛りのフライドポテト！写真を撮った後はアメリカンハンバーガーを味わいました！みんな完食でした。

また、お店にあった過去の写真の中に、何と以前のプログラムで来ていた先輩達の写真があり、そこでも盛り上がりました！若き日のコナー先生も写っていて、今と違う（？）コナー先生がそこにいたとのことでした。（笑）

タウンミーティング見学

アーリントンに戻り、タウンホールでタウンミーティングを見学しました。短い時間でしたが、市民の中の代表が、予算や条例を議決していく重要な場を実際に見させてもらうことができました。

その中で、私たち訪問団のことを紹介していただきました。全員で日本語であいさつをし、大きな拍手を受けました。姉妹都市であるアーリントンと長岡京市の架け橋に自分たちもなっていること、今日の見学から胸に刻む機会となりました。

今回のプログラムの貴重な経験を、忘れないでほしいと思います。

ボストンレッドソックス戦へ（4月29日）

29日の夕方は、フェンウェイパークへレッドソックス対ガーディアンズの試合を観戦しました。結果は8-7でレッドソックスがサヨナラ勝ちでした！球場のレッドソックスファンは大盛り上がり！その雰囲気全員で味わい、メジャーリーグの試合を満喫した時間になりました。



ミニットマン専門学校（職業技術学校）

午前中は、ミニットマン専門学校を訪問しました。様々な分野を扱う学校です。美容、看護、機械、自動車、、、といろいろな分野があり、一つひとつを丁寧に説明してもらいました。調理のところでは、実際にオムレツとカップケーキにデコレートさせてもらいました！

先生や生徒達に教えてもらいながら、みんな真剣に取り組みました。自分たちが作ったものを、最後においしくいただきました。また、実際に生徒たちが作ったものは、一般の人でも併設のレストランで食べることができます。

それぞれの専門分野について、扱っている内容、学んでいること、使用している機器類、、、どれもハイレベルであり、みんな興味津々で聞いていました。

見学の最後に、ここでもたくさんのお土産をいただき、みんな大喜びでした！

どこでも優しく、温かく迎えてくださり、ありがたかったです。最後に全員で記念撮影をしました。

キンボールファームへ

ここは、元々ファームだったところを改良され、楽しめる場所に整えられていました。最初にアイスクリームを食べました。ミニサイズでも、とても大きなサイズであり、一人で食べきれず、他の友達にヘルプしている人もいましたね！またまたアメリカンサイズを実感！

その後、いくつかのアトラクションを思いっきり楽しみました。天気が良くない時もありながらも、楽しむことができた瞬間でした。

その後、2日目に訪れたバーリントンモールに再び訪れました。少し時間を取り、ショッピングや少し遅いランチの時間を思い思いに過ごしていました。

今日が終わり、活動は明日が最後。ホストファミリーともたくさんコミュニケーションを取って、良い経験と思い出を作ってほしいと思います。

From Arlington 2023 5月3日 ⑦



ロックポート散策

今日が活動の最終日となりました。残念ながら、ホエールウォッチングは波が高く中止となってしまいましたが、港町のロックポートへ行きました。

どこも絵になるとても良い街並み。ロックポートの街並みを散策したり、ショッピングをしたりして、昔からある古いアメリカの街を肌で感じました。

中には、すでにお腹がへったという生徒も！街の中の眺めの良いカフェで、海をバックに早いランチを食べていました。アメリカへ来ても食欲旺盛なのは素晴らしいです。

その後、近くの砂浜へ移動。風があり少し寒かったですが、ホストファミリーが用意してくださったランチを、砂浜で食べました。

コナー先生曰く、夏はたくさんの方が訪れるそうですが、今はまだ肌寒いので、ほとんど来ている人はいないため、ほぼ私たちの貸切状態でした！

目の前は大西洋！ランチを食べ終わったら波打ち際まで行って、貝を拾ったり、砂浜を走ったり、眺めを楽しんだり、、みんなで記念撮影をして、ここでもアメリカのスケールの大きさを感じました。

クインシーマーケットへ

ロックポートを後にして、ボストンに戻り、クインシーマーケットに行きました。アメリカの街での最後のショッピング、散策タイム。これでボストンの街並みをゆっくり見るのも最後です。

日本の家族へ、自分へ、みんなお土産をたくさん選んでいました。

バスに乗るやいなや、このプログラムで毎日いろいろな所へ連れて行ってくださったバスの運転手、ウェインさんから、一人ひとりにエッグタルトのプレゼントが！このサプライズプレゼントに、みんなで「Thank you!」を伝えました。ここでも温かいおもてなしを感じたひとときでした。

フェアウェルパーティー

夜はアーリントンでの最後の活動、フェアウェルパーティーです。

一人ひとりのホストファミリーも集まり、生徒は浴衣や武道着などに身を包んで、アーリントンでの最後の夜を全員で楽しみました。

それぞれのホストファミリーから、手作りの料理を持ってきていただきました。また、ホストファミリーからは、生徒らへメッセージが。心温まる言葉に、生徒からも一人ひとり、この滞在期間の感謝を英語で伝えました！

ホストファミリーに温かく迎えていただいて、この夜もたくさんの会話をしている様子から、アメリカでの素晴らしい経験が得られていると感じます。

今日まで、たくさんの準備と活動を進めてくださった、ジョアンさんをはじめ、ホストファミリーのみなさんに、感謝です！

本当にありがとうございました！

いよいよ明日はアーリントンを離れる日。あっという間の滞在でしたが、きっと一人ひとりの心の中に、このプログラムで得た貴重な経験が、刻まれていることと思います。